



熊本地方検察庁新聞 「ヒーゴタイムズ」発刊!

みなさん、検察庁って知っていますか? 公民の教科書の中で、裁判について説明してあるところに「検察官」という言葉が出てくると思います。その「検察官」が働いているところが「検察庁」です。みなさんに、「検察庁」のこともみなさんが将来選ばれるかもしれない「裁判員制度」について知っていただきたくて、熊本地方検察庁新聞「ヒーゴタイムズ」を作りました。「ヒーゴタイムズ」を通じて、みなさんに検察庁のこと、検察庁が関わっている仕事のこと、裁判員制度のことなどを、お知らせしていきたくて思っていますので、ぜひ、読んでください。

熊本地方検察庁広報キャラの「ヒーゴ」を紹介します。

はじめまして。ぼくの名前は、「ヒーゴ」っていいです(ちなみに馬です)。みんなが安心して暮らせるような社会になるように、熊本地検の広報のお手伝いをしています。どうぞよろしくね。



★ヒーゴクイズ★

裁判員制度についてのクイズを出題します。答えが分かった人は、インターネットメールまたは、はがきに、名前・学校名・学年・クラス・答えを記入して、下の宛先に送ってくださいね。正解者の中から抽選で5名の方に、熊本地方検察庁オリジナルグッズをプレゼントします。

問題 次の3つのうち、裁判員になれない人が一人だけいます。さあ、何番の人が裁判員になれないのでしょうか?

- ① 医者
- ② 弁護士
- ③ 中学校の先生

熊本地検ホームページの裁判員制度のところ
にヒントがかかされているかも・・・。

おしえて! 裁判員制度 その1

- Q 裁判員になったらなにをしたらいいの?
- A 裁判員になったら、次の仕事をします。
- ① 裁判に立ち会って、検察官、弁護士、被告人などの話を聞く。
 - ② 検察官と弁護士・被告人の話や証拠について、他の裁判員や裁判官と話し合う(評議といいます)。
 - ③ 被告人が有罪か無罪か、有罪のときは、どんな罰にするかをみんなで決める(評決といいます)。
 - ④ 裁判長の行う判決宣告に立ち会います。
- これで、裁判員の仕事は終了します。

検察庁はどんなところ? その1

検察庁は、法務省に属していて、**検察官・検察事務官・被害者支援員**という人たちが働いています。それぞれ、どんな仕事をしているのでしょうか?

検察官 ーけんさつかんー

犯罪が発生したら、普通は、まず、警察が捜査をします。警察は捜査をした結果を書類にまとめて、検察庁へ送ります。このことを送致といいます。テレビのニュースなどでは、送検と言われることが多いです。

ここで、検察官が登場します。

検察官は、警察から送致があった事件や、自ら見つけた事件の捜査をします。捜査では、犯人(被疑者(ひびぎしゃ)といいます。)の取調べをしたり、被害者や目撃者などの事件関係者から話を聞いたりします。そのほか、証拠を集めたりして、被疑者が

どんな罪になるのか、罪にはならないのか、

罪になる場合は、被疑者を

裁判にかけられるのか(起訴)、

裁判にかけないのか(不起訴)を決めます。

次回も、引き続き、検察庁で働く検察官の仕事を紹介いたします。お楽しみに。



◆宛先&お問い合わせ先◆

〒860-0078
 熊本市京町1丁目12番11号
 熊本地方検察庁企画調査課
 (広報担当)

- 電話 096-323-9035
- メールアドレス kumamoto-chiken@ppo.mojgo.jp
- ホームページアドレス <http://www.kensatsugo.jp/kakuchou/kumamoto/kumamoto.shtm>





職員からのメッセージ



熊本地方検察庁
 検察官 横手

私は、検察官の仕事ぶりをテーマにしたドラマを見て、ドラマに出てくる検察官が真実を解明するために奮闘する姿に憧れ、やりがいのある仕事だと思い、検察官になることに決めました。

検察官になるためには司法試験という試験があつて、法律をしっかりと勉強しなくてはなりませんでしたが、自分のしたい職業につくための勉強でしたので、それほど苦にはなりませんでした。

実際に検察官になってみると、ドラマのようにまくはいかないものでした。取調べの相手は生身の人間ですから、相手が話したくないことを聞き出すことは簡単ではありません。そのような相手に事件の真相を話してもらうためには、

「この検察官にだったら話してもいい。」と思ってもらえなければなりません。ですから、検察官には、相手の立場に立って、相手の気持ちを理解できる想像力、そのための人生経験など様々なものが必要となつてくるのです。

ある被疑者が、私の前で初めて真実を話してくれたことがあります。そのとき、「本当のことを話すチャンスを与えてくれてありがとうございます。」と一言つけてくれたのです。こんなうれしい言葉をかけられたことはこれまでありませんでした。

私は、まだまだ二年目の若輩者です。これから仕事もプライベートも様々な経験を積んでいきたいと思っています。皆さんも色々な勉強をして、様々な経験を積んでください。



熊本地方検察庁 鹿屋支部
 検察官 副検事

私が鹿児島地方検察庁鹿屋支部に検察事務官として勤務していた平成八年から十年ころ、同支部に私より十歳年上の先輩副検事がいました。その先輩は今でも一番尊敬できる先輩ですが、当時、さっそうとたんたんと仕事をこなす姿を見て格好良いと思いつた先輩に憧れ、副検事を目指しました。法律家として順序立てたものの考え方ができるよう、二年間必死で基礎的な勉強をしましたが、そんな姿を見ていたのでしよう、当時、幼稚園の年中さんだった長女（現在高校二年生）が七夕の短冊に、『おとうさんが、はやくしけんにとおりますように。』と書いていたのを見たことが、その二年間での一番の発憤材料になりました。

その後、法務省が毎年実施する副検事選考試験を受験し、娘の願いどおり副検事になることができました。

副検事になってからは、主に事件の捜査・処理、公判立会及び刑の執行等の仕事をしていきますが、時期によっては、仕事が忙しく、休日返上になってしまい、家族サービスができず、家族に寂しい思いをさせることもあり、大変な職に就いたと感じることもありますが、反面、転勤を重ねることに友達や知り合いがどんどん増えていくことは、とても良かったと感じています。また、転勤先で初体験のことも多く、長崎地方検察庁佐世保支部勤務の時は、餌木（えぎ）外観をエジなどに似せた形や模様にした「ぎじえ」でイカを釣る『エギング』という釣りの方法を習うことができました。

最後に、私が副検事になってうれしかったことを紹介します。ある事件の被疑者から私あてに一通の手紙が送られてきました。その手紙には、「就職して真面目に仕事をしています。厳しいお言葉ありがとうございました。もう二度と犯罪に手を染めません。」ということが書いてあったことです。とても感謝し、今でも良い思い出として心に残っています。



熊本地方検察庁
 検察事務官

検察庁には、検察官だけではなく、私のような「検察事務官」がいるということを皆さんは知っていますか。

私が、検察庁に興味を持ったのは、大学に入學して刑事裁判を傍聴し、厳正に処罰を求める検察官を見て、漠然と「検察官ってかっこいいなあ。」と思ったことがきっかけでした。

その後、検察庁について色々調べるうち、検察官は、犯罪を捜査して、犯人を裁判にかけ、裁判で有罪を証明するなどの仕事をし、また、検察官と二人三脚で事件の捜査に当たっている検察事務官の存在を知り、大学卒業後、迷うことなく国家公務員試験を受験し、希望通り検察事務官に任官することができました。

私は、検察事務官になってまだ二年目ですが、毎日そう言うする事柄が新鮮であるとともに、失敗することも多々あるのですが、先輩達からのアドバイスを糧に少しずつではありますが、仕事に身についていく喜びを感じており、毎日仕事に行くのが楽しみとなっています。

また、私の現在の仕事の一つに図書整備があるのですが、読書が好きな私にとって、本に囲まれて仕事をすることは、とても幸せに感じます。

検察庁という堅いイメージがあるかもしれませんが、周りの検察官も検察事務官もとてもいい人ばかりで、明るい雰囲気です。最後になりましたが、このメッセージで少しでも皆さんが検察庁について興味を持っていただけたら幸いです。